

繭（まゆ）

あなたの思い出が  
わたしの掌（てのひら）からも眼からもあふれてきたら  
この点々と陽が射す  
明るい黄色のカナダ楓（かえで）の森で  
わたしはしっかりと両の膝を抱きかかえ  
涙で銀の糸をつむいでは  
繭をつくろう

殻のなかであなたの微笑がこだまして  
さらさら揺れてひびが入ったら  
わたしはまっすぐに芽を出して  
派手な朱鷺（とき）色の花を咲かそう  
その日一日日暮れまで  
あなたは至福につつまれる

闇とともにあなたに謎が落ちてくる  
だれ  
誰  
それは誰？

空の繭  
それは何？

